

彩の歳時記

平成二十三年

五月

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥心驚
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

「壊れてしまった町に草木が青々と茂っている。時に花にさえも涙を流し、家族との別れを悲しんで、鳥にさえ心を乱される。三ヶ月、絶え間なく続く戦災に家族の手紙は、金に代えられない大きな価値を持つ。白髪だらけの頭を搔けば毛髪はさらに短くなり、もうかんざしを挿すのも無理になりそうだ。

中国詩史上最高の詩人の一人で詩仙と称される杜甫(とほ)【712～770】の五言律詩『春望』の冒頭の一節。人知を超えた自然の営みは脅威と恩恵を併せ持っています。見渡せば季節は巡り、桜は咲き散ってゆきました。緑が色を増し、花は何事もなかったように咲き乱れ、初夏の訪れを感じさせてくれます。時代を越えて人の心を動かす「言葉」に巡りあう五月に。



国破れて山河あり
城春にして草木深し
時に感じて
花にも涙をそそぎ
別れを恨んで
鳥にも心を驚かす
烽火ほうか三月に連なり
家書かしょ萬金ばんきん
に抵あたる。
白頭の搔きて更に短く
渾(すべて)簪(かんざし)に
勝(たえ)ざらんと欲す

五月の異称

五月さつき 耕作の意味する「さ」から稲作の月で「さつき」

五月の暦

一日 メーカー MayDAY 労働者の祝日。働く人々が団結する日。国際的な労働者の祭により「LaborDay」「WorkersDAY」などの名称がある。

日本赤十字社創立記念日 明治十年(1877年)のこの日、西南戦争の負傷者を救おうと、元老院議員の佐野常民らが博愛社(日本赤十字社の前身)の設立を請願したことに因み、日本赤十字社はこの日を創立記念日に。未曽有の被害を出した東日本大震災に寄せられた義援金は、**四月二十日現在、196万0261件 1,435億1722万1,315円に達した。**

二日 八十八夜 立春から八十八日目。別れ霜といわれる「遅霜」の時期。唄で知られる一番茶摘みの頃。

三日 憲法記念日 祝日 日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する日。

四日 みどりの日 祝日 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ日。

修司忌

詩人・歌人、俳人、小説家・映画監督・作詞家、劇作家、演劇実験室天井桟敷主宰など多面な才能を発揮し、一時代を築いた寺山修司【1935～1983】の忌日。言葉の錬金術師の異名を持ち膨大な量の文芸作品を発表する一方、競馬への造詣も深く、競走馬の馬主としてメディアの寵児的存在であった。青森県弘前市生まれ。「われに五月を」「田園に死す」など。
マツチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや



五日 こどもの日 祝日 こどもの人格を重んじ幸福をはかるとともに母に感謝する日。

端午の節句 男子の成長を祝う祭。菖蒲で邪気を払い、鯉のぼりや武者人形などを飾り縁起がよいとされる粽(ちまき)や柏餅(かしわもち)を食べる風習がある。

六日 立夏りっか【二十四節気】 蛙始めて鳴く【七十二候】

八日 母の日 第二日曜日

二十一日 小満しょうまん【二十四節気】 自然界の物が次第に満ちてくる事から。

五月の歌

茶摘 作者不詳 2007年『日本の歌百選』に選出。

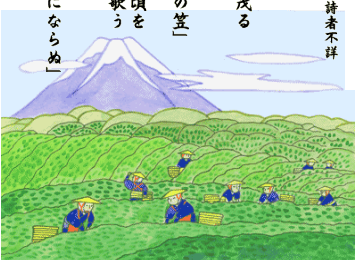
二人で向かい合って「せっせっせーのよいよいよい」で始まる手遊び歌でもある。繰り返しの動作は茶を摘む手つきを真似たと言われる。「あかねだすき」とは、茜の根で染めた赤いたすき。茜(あかね)は、止血剤として知られ、素手の作業ゆえ、指先に怪我をしやすい茶摘みの時、禱(いた)たすきの茜成分を擦り込みながら作業をするという先人の知恵が、この装束にあると言われる。

茶摘

作者不詳



夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えるは
茶摘じやないか
あかねだすきに菅の笠」
日和つづきの今日此頃を
心のどかに摘みつつ歌う
「摘めよ摘め摘め
摘まねばならぬ
摘まにや日本の茶にならぬ」



昭和四十五年五月 東京小学唱歌(1)